Annual Report 2015

2015年度年次報告

特定非営利活動法人
日本イラク医療支援ネットワーク
〒171-0033 東京都豊島区高田3-10-24
第二大島ビル303　☎03-6228-0746

イラク北部・ドホークにあるナブラス（チョコ缶を描いてくれた少女。13 歳で死去）の家の前で遊ぶ子どもたち。（2016 年 1 月　撮影：安田菜津紀）

もくじ

ごあいさつ　　佐藤真紀（JIM-NET 事務局長）.....1
JIM-NET のあゆみ・組織体制 2
JIM-NET 2015 年度活動報告 3
JIM-NET 2016 年度活動計画 10
2015 年度収支実績・2016 年度予算 11
貸借対照表 11
JIM-NET 参加団体 12
監査報告書 12

✺ごあいさつ

2015 年 9 月

3 歳の男の子が、トルコの浜辺に打ち上げられました。その後姿は、とても心地よく眠っているように見えます。ヨーロッパに密入国する船が転覆して溺死した遺体とはとても思えない写真でした。このニュースが世界中に流れると、ドイツをはじめ EU の一部の国は、難民を積極的に受け入れることを表明しました。

すると、多くのイラク人や、シリア人らが、「ヨーロッパしかない」「今しかない」とまるで取りつかれたようにヨーロッパを目指しました。中でもドイツは、経済力から一番人気です。441,899 件の難民申請があり、認定は 140,915 件とのこと（実際は 110 万人がドイツに入国。手続き等が間に合わず少ない数字になっている）。比べてみると日本は、難民認定申請者数は 7,586 人と過去最多だったが、うち認定されたのは 27 人だとのことです。

じゃあ、もっと日本も難民を受け入れるべきという意見もありますが、文化的な問題もあり、そう単純にはいかないでしょう。

ただ、知らん顔をするのではなく、ヨーロッパとも一緒になってこの問題を解決していく努力は必要です。日本政府が先日行われた G7 で、イラク、シリアの安定のために 3 年間で 60 億ドルを拠出すると明言したことは、歓迎すべきだと思います。日本政府が大きな船をだすなら、私たち JIM-NET は、船に乗れない人たちへの支援に力を入れていきたいと思います。

チョコ募金もおかげさまで 10 回を無事に終えました。

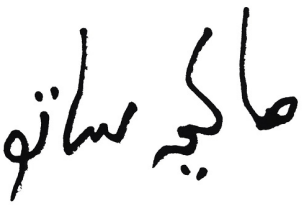
そして 11 回目のチョコ募金のデザインもすでに完成しています。

ここのところテーマとしての「いのちの花」が定着してきました。

5 月には、ドイツに移住したがん患者のイマーン（11 歳）にも「いのちの花」を描いてもらいました。ヨーロッパ風のデザインになっています。

チョコ募金が始まるまでまだ時間はありますが、是非、「いのちの花」を枯れさせないために引き続きご支援をよろしくお願いします。

特定非営利活動法人
日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）
事務局長　佐藤真紀



✺ JIM-NET のあゆみ

1990 年代半ば、イラクの子どもたちの間で、がん・白血病の発症率が急激に増加し始めました。1991 年の湾岸戦争時に米軍が使用した劣化ウラン弾の放射能の影響だと思われます。しかし、湾岸戦争後の経済制裁による抗がん剤や医療機器の輸入制限のため、適切な治療が受けられずに、多くの子どもたちが、助かるはずの命を失っていきました。

2003 年のイラク戦争では、米軍は再び劣化ウラン弾を使用しました。イラクの病院は破壊され、疲弊し、保健行政も機能不全に陥り、増え続ける小児がん・白血病の子どもたちにとっては危機的状況でした。2004 年 6 月、来日したバスラ産科小児科病院のジャナン医師と日本の支援者たちの間で、子どもたちの窮状を救うための話し合いがもたれました。そして、より効率的で継続的な支援体制の確立をめざし、NGO、市民グループ、日本とイラクの医師たちが「日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）」を立ち上げました。以降、任意団体として 7 年あまり活動した後、2012 年 2 月 1 日、特定非営利活動法人（NPO 法人）となりました。

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災においては、宮城県石巻市を中心に医療支援や仮設風呂の提供を行なうとともに、地震と津波で福島第一原子力発電所の事故が起きた福島県では、放射能の被害を最小限に留めるべく除染や疎開の支援をしました。また 2012 年 4 月からは、内戦が激化したシリアから大量の難民が発生したことを受け、難民基金を立ち上げて緊急支援を開始しました。

2015 年にはイラクから JIM-NET の支援で白血病を克服したハウラさんを招聘、日本国内 4 カ所で交流会を開催し、イラク戦争を被害者の立場から考える機会をつくりました。ヨルダンにおけるシリア難民の戦争負傷者／障害者支援を継続し、イラク国内避難民を対象に緊急支援を行いました。

JIM-NET は、イラクの小児がんの子どもたちが、自国できちんと治療を受けられるようになり、先進国並みの生存率になるように支援を続けます。福島での活動も継続し、国内外を問わず放射能汚染から人々を保護するために必要な諸活動を行います。また、シリア難民支援とイラク国内避難民支援も継続して取り組んでいきます。

JIM-NET の活動「3つの柱」

- イラク小児がん支援
- 難民支援（イラク・ヨルダン）
- 福島支援

✺組織体制

【役員】

代表	鎌田實
副代表兼事務局長	佐藤真紀
理事	池住義憲
理事	井下俊
理事	鎌仲ひとみ
理事	谷山博史
理事	平野裕二
監事	栗原郁

【スタッフ】

東京事務所スタッフ：５名（他アルバイト４名）

アルビル事務所スタッフ：1 名　アンマン事務所スタッフ：1 名

現地スタッフ：アルビル 2 名　バグダッド 1 名　バスラ 1 名　ヨルダン 6 名

【サポーター】

ラナサポーター―*：602 名　　一般サポーター **：1,289 名

* ラナサポーター：年会費 1 万円。うち 3 千円が会報誌のご送付やイベント参加費免除等のサービスと、JIM-NET の運営に充てられるほか、7 千円を子どもたちの医療支援費に充当します。

** 一般サポーター：年会費 3 千円。会報誌のご送付やイベント参加費免除等のサービスと、JIM-NET の運営に充当されます。

JIM-NET の海外活動拠点
（2016 年 3 月末現在）

○囲み数字は
「Ⅰ.イラク小児がん支援」
に対応している地域です。

Ⅰ.イラク小児がん支援

小児がん・白血病に罹ったイラクの子どもたちへの医療支援を行います。

ユーニス・マハムード選手の来訪に大喜びのマージッド君（①アルビル）

感染症対策キットを子どもたちに配布（②バグダッド）

①アルビル地域（北イラク）

1）医薬品・医療器材支援

1-1）ナナカリ病院に約 31,000 米ドル分の医薬品を支援。

1-2）医療器材支援として、以下のものを供与。

・血球分離装置であるセルセパレーターの消耗医療品 24,000 米ドル分の 68 キット

・血液検査機器であるフローサイトメトリ（流動細胞分析機）の試薬消耗品 16,000 米ドル分

2）病院内プレイルーム：2014 年度より、現地 NGO のクルディスタン・セーブ・ザ・チルドレン (KSC) からソーシャルワーカーが派遣され、病院内プレイルームでの活動を協同で実施。

・入院や外来の子どもたち向けの、患者同士の交流会やお絵かきワークショップなどのイベント

・サッカーイラク代表のユーニス・マハムード選手を病院に招聘

・新学期時期に「back to school」キャンペーンを企画・実施し、就学年齢の患者 26 人にバッグ・文房具を配布

・シリア難民支援の手工芸ワークショップで作成したニット帽を子どもたちに配布。

3）貧困患者支援：小児がんを患う貧困患者延べ 56 人を支援。

②バグダッド（小児福祉教育病院、中央小児教育病院）

1）医薬品：55,000 米ドル分の医薬品を支援。

2）病院内プレイルーム：中央小児教育病院内で院内学級を週 3 日実施し入院中の子どもたちの学習を補助している。それ以外にもプレイルームを運営し、常時数名の子どもが遊んでいる。

3）人材育成・感染症対策：感染症対策の消耗品を供与。

4）貧困患者支援：小児がんを患う貧困患者延べ 145 人の自己負担分の薬代や交通費を支援。

③バスラ（バスラ小児専門病院）

１）医薬品：月約 10,000 米ドル分の医薬品を支援。

２）病院内プレイルーム：院内学級を 40~50 人向けに 1 日 2 回実施した。教師の一人はがん生存者で、学習サポートだけでなく闘病経験を活かしたケアを行っている。誕生日会を 2 回、計 8 名のために実施。地域の関係者を招いたチャリティイベントを開催。

３）人材育成・感染症対策：アルコールジェルやマスクなどの感染症対策の消耗品を供与。

４）貧困患者への交通費、検査費等支援：小児がんを患う貧困患者延べ 190 人の自己負担分の薬代や交通費を支援。

子どもたちと JIM-NET スタッフが一緒にピクニック（③バスラ）

④ヨルダンでの小児がん治療費補助

キングフセインがん基金を通して、シリア難民小児がん患者のアンマンのキングフセインがんセンターでの治療費を支援。

⑤国内避難民、難民の小児がん患者支援

１）治療環境改善支援：アルビル、ドホークで、避難民 7 名に自宅での治療環境改善のための冷風機を提供。バスラでは、2 名に交通費、食料を提供。バグダッドでは、2 名に調理器具や寝具等を提供。

２）感染症対策キットの配布：アルビルで、避難民 15 名に衛生キットを配布（アルコールジェル、マスク、石鹸、歯ブラシ、歯磨き粉）。

３）ドホーク物資支援:JIN 病院に約 5,000 米ドル分の医薬品支援。

４）収入創出活動：1 名をモデルケースとして夏季にはかき氷、冬季にはフール（煮豆）の配布活動を委託。

シリア難民ローリンさんとお父さん、かき氷配布に頑張る（⑤アルビル）

⑥その他

・国内避難民 1 名とシリア難民 1 名へ宿泊場所を提供。

・日本人看護師による緩和ケアの概要と事例について紹介。

・インドで骨髄移植手術を受けた 3 名の患者の、移植後 3 回の予防接種を実施した。

Ⅱ-1. 難民支援（イラク）

シリアからの難民（クルド民族）や、「イスラム国（IS）」などの武装勢力の制圧地域から逃れた国内避難民に緊急支援を行います。

１）イラクにおけるシリア難民母子保健支援

1-1）　健診の実施・健診用機材の供与

・11 月下旬から、産婦人科医が週 5 日キャンプ内クリニックに派遣。1 日 40 ～ 50 人に対して妊産婦診療や婦人科診療を行っており、その内約 20 ～ 25 人が JIM-NET の供与したエコー健診を受けている。

1-2）母子保健に関する情報提供

・冊子を配布し、セミナーを 7 回実施。

1-3）母子緊急医療支援

・母乳が出ない母親や、特殊なミルクが必要な乳幼児 19 人に、粉ミルクを配布。

・健康上の問題を抱える新生児・乳児 7 人をアルビル市内のクリニックへ移送、また医薬品を支援。

1-4）妊産婦を含む女性向けワークショップの実施

・縫製・刺繍・ヘアメイク・編み物コースを実施。毎月入れ替え制で、各コース 1 ヶ月間で 20 名ほどが参加。

シリア難民女性向けのワークショップ・縫製コース

健康セミナーで鎌田代表がブロッコリー片手に講演「もっと野菜を食べよう」

給水車でハンケ地区を訪問する佐藤事務局長（2015 年 6 月　撮影：田山達之）

シンジャール山に避難しているヤジディ教徒の住むテント

1-5）その他

・鎌田實 JIM-NET 代表の健康セミナーの実施

ダラシャクラン難民キャンプで、鎌田代表が健康になるための生活習慣について講演。野菜摂取の推進の話で、JICA が技術協力しているブロッコリーを紹介し、参加者に配布した。ブロッコリーは、あまりなじみがないために、料理の試食も行い参加者が団らんする場を作ることができた

1 月と 3 月の 2 回実施し、合計で 100 名近くの参加があった。

2）イラク国内避難民支援

2-1）給水支援

ドホーク・ハンケ地区キャンプ外の国内避難民へ給水を行った。

(i) 給水支援：4 月 18 日～ 12 月 17 日までの 8 カ月間実施した。20 万リットル / 月の水を約 400 世帯に給水した。

(ii) 特に暑い時期（7~9 月）に、給水地域に合計 5 回の氷を配布した。

(iii) 難民の子どもたち向けに、かき氷の配布を合計 4 回行った。

2-2）女性支援

イスラム国から解放された避難民女性計 29 人の医療支援を実施（内 24 人が性的な暴力を受けた女性）。健診費・診療や治療のための薬代を支援。

2-3）物資支援

・ヤジディ教徒の催事に合わせ、新年祭で卵 30 個セットを 216 家族へ、計 6480 個配布。

・4 月に IS から解放された 40 人分に緊急食料支援。

・ラマダン明けにイスラム教徒の避難民居住区 50 世帯に鶏を配布。

・犠牲祭に合わせ、特に支援が届いていないキャンプ外の IDP50 家族に食料支援。

・貯水タンクがない 3 家庭に、貯水タンクを提供。

・ドホーク県の避難民キャンプの学校にバナナ 700 本を配布した。

・シンジャール山の避難民におむつ 100 パック、生理用品 100 袋、粉ミルク 840 缶を配布。

2-4）医療支援

シンジャール山に避難している避難民が基礎医療を受けられるよう、モバイルクリニックを 2016 年 3 カ月間（2 月～ 4 月）実施。

Ⅱ-2. 難民支援（ヨルダン）

シリア難民の負傷者／障害者が必要な医療を受けることができるように、また、将来彼ら自身が自ら平和な社会を創っていく力を身につけられるよう活動支援を行います。

1）アクセス支援

医療施設／サービスと居住施設を往復する車両を運行し、延べ 836 人（利用回数）の負傷者／障害者が利用した。

医療施設にシリア難民の負傷者／障害者を運ぶ

2）女性・子どもの負傷者／障害者支援

イルビッドの現地提携団体のリハビリテーション施設に、リハビリテーション用機材（超音波治療器、TENS、パラフィン浴、ホットパック、筋力トレーニング機器）を設置し、女性理学療法士およびコーディネーターを派遣した。女性、子どもの負傷者／障害者を中心に、センターで延べ 438 人が 1,767 回（セッション）のリハビリテーションを受けた。また､延べ 85 人が 235 回（セッション）の在宅リハによる理学療法を受けた。

3）義肢支援

2015 年 7 月から必要とする人の照会を受け始め、8 月より順次製作を開始し、2015 年までに 22 名に対し 23 パーツの義足 (x19)／義手 (x4) を提供した。

4）地元 NGO を通したリハビリテーション活動支援（理学療法士の派遣）

延べ 1,341 人の負傷者／障害者がザアタリ難民キャンプでリハビリテーションを受けた（週 3 日＝計 137 日間実施)。

アンマン近隣に住み、身体障害により自宅からの移動が困難な延べ 761 人の負傷者／障害者が在宅リハを受けた（週 3 日＝計 147 日間実施)。

アンマン近隣に住み金銭的にアンマンのリハビリテーション施設に通う事が困難な延べ 318 人の負傷者／障害者がリハビリテーションを受けた。

5）理学療法士の能力向上トレーニング

日本人の作業療法士を講師に計 3 回のセミナーを実施。計 21 人の理学療法士やその他リハビリ従事者が参加した。

6）CBR（地域に根差したリハビリテーション）研修

イルビッドにて全 5 回の研修を実施。計 19 人のリハビリ施設や障害者 NGO も含むローカル／国際 NGO のスタッフ､その利用者(障害者）と家族が参加した。最終的に成果物として活動計画案が作成され､1～3月はその実施に向けての準備ミーティングを実施した。

第一期（3 ～ 6 月）として障害者スポーツ活動および学校での障害啓発キャンペーンを開始した。

7）女性障害者の活動

当初、女性のシリア難民の負傷者／障害者の状況とニーズを把握するために聞き取りを実施し、女性を対象にしたプログラムを検討していたが、CBR 研修実施後、男性女性問わず負傷者／障害者自身が様々なニーズを挙げて自ら活動を計画できるようになったため、女性に限定せずに障害者による活動を支援することとした。

8）地雷回避教育

マフラックにて、3 セッションの地雷／不発弾回避教育を実施、合計 179 名（6 ～ 15 歳の男女）が参加した。

たる爆弾の被害で右足膝下を切断したモハンマド君の義足を作る

女性の負傷者／障害者のリハビリテーション

理学療法士の能力向上トレーニング

Ⅲ. 福島支援

2011 年の福島原発事故による放射能の影響から福島の子どもたちを守り、また、福島の人々が元気になるような支援を行います。

1）子どもたちを放射能から守る活動

1-1）郡山の市民団体「安心・安全アクション in 郡山（3a！）」に、ホットスポットファインダーの管理を委託し、希望する住民が測定できるように貸出している。活動経費の支援も実施した。

1-2）NPO「アースウォーカーズ」主催の「福島・ドイツ高校生交流プロジェクト」に日本国内での交通費の一部を負担した。この資金はイラク現地の JIM-NET スタッフであるイブラヒムが集めた募金約 5 万円を使用した。

1-3）チーム二本松の幼稚園に放射能で汚染した落ち葉が入ってこないように、コンクリートの壁を造る費用の一部を寄付した。

1-4）「動く英語教室」に 50 万円を支援した。福島の低所得者の小・中・高生 25 名を週末、猪苗代で研修させ、アメリカでの体験学習、宮崎での農業体験を行った。

2）放射能リテラシー

2-1）JIM-NET が今までかかわった市民放射能測定所約 25 か所を訪問し、現状調査し、調査内容をホームページや Facebook で、福島の現状として報告し、発信。

2-2）まとめと分析をおこない、市民が放射能災害にどう対処したかを、NPO 学会で発表。

3）福島を元気にするプロジェクト

3-1）JIM-NET の福島復興支援のシンボルとなった“サカベコ”の絵付けワークショップを日本とイラクで行い、展示した。パルシステム生活協同組合と共催し、イラクからがんの生存者ハウラ来日時にワークショップを実施。また、シリア難民の障害者（戦争による）や、イラク小児がんの子どもたちにも絵付けをしてもらい、「いのちの花展」（2016 年 2 月・ギャラリー日比谷）等で展示した。

3-2）会津仮設住宅支援

楢葉町への帰村帰村に伴い、仮設住宅にあったクリスマス用の電飾も楢葉町へ移設したため、あらたに JIM-NET が電飾を支援した。

JIM-NET のアイドル、サカベコ

楢葉町にクリスマス用の電飾を移設

4）海外への発信等

国連防災世界会議の成果物『福島 10 の教訓～原発災害から人びとを守るために』ブックレットのアラビア語版を 10,000 部作成。中東諸国へ配布する予定。

5）未来のエネルギー

いわき学園にソーラーパネル（5 KW）を設置した。

5-1）チョコ募金の他、APLA+ アーユス＋オルター・トレード・ジャパン（ATJ）と共同で開発したカカオクッキーの募金分、47,000 円も加え、約 300 万円の支援になった。

Ⅳ. 政策提言・啓発

イラク戦争の検証など、世界から戦争の原因を取り除いて真の平和をつくるために発信し、行動します。

1）イラク戦争に対する日本の責任追及

イラク戦争の検証を求めるネットワーク」では、民間による公聴会が立ち上がり、3 月に記者会見をおこなった。

2015.8.31 国会前

２）非人道兵器の国際的な禁止の枠組みを作る

９月にクロアチアで開催されたクラスター爆弾禁止条約第一回再検討会議にスタッフが参加し、シリア紛争の被害を訴えた。

３）シリアにおける紛争の終結に向けたアドボカシー

「シリア和平ネットワーク」に参加。2016 年 5 月開催の G7 伊勢志摩サミットにて、日本がシリア紛争終結に向けたイニシアチブをとるよう、政府関係者に働きかけを行なった。

４）安保法制に反対する NGO と連携

「NGO 非戦ネット」の立ち上げメンバーとして、特に上半期は安保法制反対に集中、理事全員のコメントを HP に掲載。また「戦後 70 年記念」と絡めて安保法制に反対する一連のイベントを実施した。

◇◇

Ⅴ. 広報・イベント

【会報誌】JIM-NET 便り：年 4 回発行。

【2015 年度の主なイベント】

5/2　イラク支援報告会〈ゲスト〉太勇二郎（NHK 報道部国際部副部長）

6/21　世界難民の日に考える「中東のいま」

7/31 ～ 8/12　ハウラ来日ツアー

JIM-NET の支援で白血病を克服したハウラ・ジャマルさん、JIM-NET イラク現地スタッフのイブラヒム、その娘のファートマが来日し、札幌、帯広、長崎、東京を訪問。

8/17　戦後 70 年企画 Part1 私たちの戦争～太平洋戦争、イラク戦争、そしてこれからの戦争〈ゲスト〉綿井健陽（フリージャーナリスト・映画監督）村田信一（写真家）

8/26　戦後 70 年企画 Part2 深刻化する「イスラム国」による女性に対する暴力　〈ゲスト〉伊藤和子（ヒューマンライツ・ナウ事務局長・弁護士）、七尾寿子（イラクチョコ募金の会）、

11/6　戦後 70 年企画＆チョコ募金キックオフ　“INORI” ～戦争で失われたすべての「いのち」のために～〈ゲスト〉クミコ（歌手）、佐々木祐滋（SADAKO REGACY 副理事長・シンガーソングライター）、斉藤とも子（俳優）

12/26　戦後 70 周年企画最終章　いま、ここにいる私たち〈ゲスト〉関野吉晴（武蔵野美術大学教授・探検家・医師）、村田信一

2/12 ～ 2/17　いのちの花展 Part2 ＠ギャラリー日比谷

3/12　中東で感じたジレンマと希望～難民支援のリアル～（共催：アーユス仏教国際協力ネットワーク・JVC・JIM-NET）

被爆 70 周年の長崎で、原爆資料館を訪れたハウラさん（右）ファートマさん（中央）イブラヒムさん（左）。背後にあるのは 1945 年 8 月 9 日午前 11 時 2 分、長崎に投下された原子爆弾「ファットマン」の原寸大模型。（2015 年 8 月 8 日）

Ⅵ. チョコ事業

2006 年から毎年行う冬の募金キャンペーン。イラク・シリア難民のがんの子どもが描いた絵を缶のパッケージに使います。

１）受付期間：2015 年 12 月 1 日～ 2016 年 1 月 27 日。
先行受付　FAX：2015 年 11 月 1 日～　WEB：11 月 16 日～

２）テーマ：2014 年度に引き続いて「いのちの花」。

缶の絵を描いてくれた 4 人のローティーンの少女たち（ローリン、ドゥア、ナジラ、ナブラス）を主人公に物語が展開するというイメージ戦略をとった。4 人が描いた「金宝樹、あざみ、水仙、ポインセチア」の絵を缶の柄に採用した（写真）。

３）製造個数：六花亭の協力で前年度と同じく 160,000 個。

４）チョコ募金総入金額：募金総額は、83,831,177 円（2016 年 3 月末日現在）。また、チョコ募金を補完する事業として、新たに「ポストカード募金」を導入し、チョコ缶と同じ柄のポストカードを制作してチョコ募金と併せて取り組んだ。その結果 992,000 円（1,984 セット）の募金を集めることができた（募金総額に含む）。

JIM-NET 2016 年度活動計画

◆ JIM-NET の本来の活動であるイラク小児がん支援を中心に行い、緊急支援としてシリア難民支援（イラク／ヨルダン）や国内避難民支援を継続して行います。
◆未だ先の見えないイラク・シリアの紛争終結のために、当事者の市民たちの対話や和解の取り組み支援や、軍事介入が及ぼす弊害などアドボカシーを続けていきます。
◆福島の人たちの活動を支えるべく、基金化を進め、福島の人々に寄り添う活動を展開していきます。

Ⅰ．イラク小児がん支援

【アルビル・バスラ・バグダッド】

- 薬支援／医療器材支援を実施
- 感染症対策の消耗品供与
- 人材育成（看護師研修／小児がん患者の緩和ケアに関する研修など）
- 院内学級／プレイルームの運営
- 入院・外来の子どもたち向けのイベントを実施
- 小児がんを患う貧困患者を経済的に支援
- 国内避難民のがん患者の情報収集し、医薬品などのニーズに対する支援を実施
- 総合支援施設の開設（アルビル）

・遠方から通う小児がん患者とその家族が宿泊でき、がんの子どもたち向けのワークショップや医療従事者・関係者向けの研修が実施され、地域でがんの子どもたちをサポートする総合支援施設を開設
1）小児がん患者及びその家族向けの総合支援施設の設立
2）医療従事者や関係者への能力強化研修の実施
3）地域住民による支援体制の強化

【ヨルダン】

- キングフセインがん基金を通して、シリア難民小児がん患者のアンマンのキングフセインがんセンターでの治療を支援

【その他】

- 最先端医療技術を使った小児がん治療を模索
- イラク人医師の海外での学会参加をサポート
- 劣化ウラン弾とがんの関連メカニズムを模索する研究事業立ち上げ

Ⅱ-１．難民支援（イラク）

- イラクにおけるシリア難民母子保健支援

1）妊産婦健診の実施
2）小児医療サービスの実施
3）乳児への粉ミルク支援

- イラク国内避難民支援

・モバイルクリニックによる医療支援

- 難民の収入創出活動

・屋台貸出し、健康セミナーで使う野菜作りなど

Ⅱ-２．難民支援（ヨルダン）

- 難民負傷者への医療アクセス支援（移送サービス）
- リハビリテーション活動支援

1）ザアタリ難民キャンプにて理学療法および作業療法を提供
2）アンマン郊外にて在宅リハによる理学療法を提供
3）イルビッドにて理学療法を提供

- リハビリ従事者の技術向上研修
- 負傷者／障害者の社会参加支援

Ⅲ．福島支援

- 子どもたちを放射能から守る活動

1）放射能測定所の支援：特にホットスポットファインダーの校正
2）保養の支援

- 福島を元気にするプロジェクト支援

1）日本チェルノブイリ連帯基金（JCF）遊び場づくり支援
2）「いわきオリーブ基金」への支援（パラリンピックに向けた取り組み）

- 原発に頼らない持続可能な地域エネルギーの促進

Ⅳ．政策提言・啓発

- 「イラク戦争の検証を求めるネットワーク」に協力し、検証公聴会の運営に参画
- 劣化ウラン弾など、がんを引き起こすと思われる武器や兵器の国際的な禁止を推進、日本社会への情報発信
- 兵器に関わらず核燃料サイクル等がもたらす環境汚染に警鐘を鳴らし、安全性が保障されない原発の海外輸出などに反対する
- 日本政府の ODA に関するアドボカシー
- シリアにおける紛争の終結に向けたアドボカシー
- 安保法制に対する NGO と連携したアドボカシー

・「NGO 非戦ネット」として、7 月の参院選まで安保法制に関する日本政府の動きを注視し、議員及びその他の関係者との面談や、勉強会等のイベントを実施し、積極的に発信していく

Ⅴ．広報・イベント／チョコ事業

- 2016 年 12 月 1 日に開始し、チョコがなくなり次第終了
- 六花亭の協力によるチョコ製造個数は 160,000 個とする
- 11 月にチョコ募金キックオフイベントを開催予定
- その他、JIM-NET の活動を報告・周知する各種イベントを計画、実行する
- 広報誌「JIM-NET 便り」を年間 4 回発行する

2015 年度収支実績・2016 年度予算

● 2015 年度活動計算書：2015 年 4 月 1 日～ 2016 年 3 月 31 日
● 2016 年度予算書：2016 年 4 月 1 日～ 2017 年 3 月 31 日

✺収益の部

〈税込〉（単位：円）

科目		2015 年度決算額	2016 年度予算額	備考
受取会費		9,967,750	10,080,000	正会員、賛助会員、サポーター
受取寄付金	（受取寄付金）	45,476,553	34,500,000	
	（チョコ募金）	83,831,177	91,400,000	チョコ関連グッズ募金を含む
	（物販寄付）	2,351,068	2,500,000	グッズ、書籍等
	（イベント寄付）	132,700	150,000	
	（絵画展寄付）	60,000	100,000	
	合計	131,851,498	128,650,000	
受取助成金等		19,693,611	23,902,091	
事業収益		808,650	0	
その他収益		488,512	0	
当期収入計		**162,810,021**	**162,632,091**	
収入計		**330,851,417**	**325,155,150**	

✺費用の部

〈税込〉（単位：円）

科目			2015 年度決算額	2016 年度予算額	備考
事業費	人件費		21,924,497	21,330,000	通勤費、法定福利費を含む
	その他経費（直接事業費）	イラク小児がん支援	43,774,202	48,900,000	
		難民支援（イラク）	6,726,413	3,900,000	
		難民支援（ヨルダン）	11,039,925	10,900,000	外務省日本 NGO 連携無償資金協力事業を含む
		福島支援	6,407,772	6,700,000	
	その他経費（事業管理費）	イラク小児がん支援	6,618,613	6,170,000	
		難民支援（イラク）	967,629	1,180,000	
		難民支援（ヨルダン）	12,702,046	14,870,000	外務省日本 NGO 連携無償資金協力事業を含む
		福島支援	1,281,234	1,000,000	
		チョコ	27,637,162	27,550,000	
		その他	7,660,898	5,870,000	会議費、グッズ購入、アドボカシー経費、印刷広告宣伝費、減価償却費、為替差損
事業費計			146,740,391	148,370,000	
管理費	人件費		13,387,043	14,000,000	法定福利費を含む
	その他経費		8,200,924	7,600,000	通勤費、旅費交通費、通信運搬費、水道光熱費、家賃保険料、支払手数料、減価償却費など
管理費計			21,587,967	21,600,000	
当期支出計			**168,328,358**	**169,970,000**	
収支差額			**▲ 5,518,337**	**▲ 7,337,909**	

貸借対照表

● 2016 年 3 月 31 日現在

資産の部

〈税込〉（単位：円）

科目	金額
1. 流動資産	
現金預金	202,151,970
未収入金	776,990
前渡金	16,886
前払費用	199,800
流動資産合計	203,145,646
2. 固定資産	
什器備品	682,447
固定資産合計	682,447
資産合計	**203,828,093**

負債の部

〈税込〉（単位：円）

科目	金額
流動負債	
未払金	15,903,105
未払費用	677,169
前受金	19,302,091
預り金	422,669
流動負債合計	36,305,034
負債合計	**36,305,034**

正味財産の部

〈税込〉（単位：円）

緊急時対応準備金	6,000,000
前期繰越正味財産	167,041,396
当期正味財産増減額	△ 5,518,337
正味財産合計	**167,523,059**
負債及び正味財産合計	**203,828,093**

✺ JIM-NET 参加団体 (50 音順)

【アラブの子どもとなかよくする会】(http://nakayokusurukai.cocolog-nifty.com/blog/)

1991 年の湾岸戦争後からアラブ地域、とくにイラクの子どもたちへの支援活動を開始、1993 年にアラブの子どもとなかよくする会を設立しました。がんの子どもたちへの医療支援のほか、クラフト作り (アファーク・プロジェクト) を通じて患者家族の生活支援を行っています。また現地や日本での子どもの交流も続けています。

【カタログハウス基金】(http://www.cataloghouse.co.jp/)

カタログハウスが発行するカタログ雑誌「通販生活」では、信頼できる暮しの道具を厳選して販売するとともに、戦争や災害に苦しむ子どもたちの救援活動に取り組んでいます。チェルノブイリの子どもたちへの支援は 2008 年まで 18 年間続けました。現在はドイツ平和村と福島の子ども支援カンパを読者に呼びかけ、イラクの子どもたち救援についてはカタログハウスが会社として取り組んでいます。

【子どもの平和と生存のための童話館基金】(http://www.douwakan.co.jp/group/fund)

童話館グループは、長崎市にある絵本・こどもの本を専門にあつかう会社です。2001 年、童話館の創業 20 周年記念として、「子どもの平和と生存のための童話館基金」が設立されました。「子どもの平和と生存のための童話館基金」はイラク南部のバスラ子ども病院へ毎月医薬品の支援をしています。

【「サダコ」・虹基金】(「サダコ」・虹基金ブログ http://sadakoniji.sblo.jp/)

「サダコ」・虹基金は、原爆の子の像のモデル佐々木禎子ちゃんと同じ病院で過ごした故・大倉記代さんが、サダコちゃんの絵本『想い出のサダコ』出版をきっかけに 2006 年 3 月に設立した基金です。この基金は、現代の「サダコ」ともいえるイラクなどで白血病や小児がんで苦しむ子どもたちを支援することを目的にしています。

【スマイルこどもクリニック】(http://www.geocities.jp/maroji60/1.htm)

小児救急施設の不足が深刻な社会問題となる中、2001 年に開院された 24 時間診療の小児クリニックです。イラク難民キャンプでの健康診断、子どもたちの手術費の負担など様々な支援を行ってきました。2011 年度はマクムール難民キャンプに救急車を寄付しました。

【日本国際ボランティアセンター (JVC)】(http://www.ngo-jvc.net/)

JVC は、1980 年、カンボジアやラオス、ベトナムでたくさんの難民が生まれた時、「何かできないか」とタイの難民キャンプに駆けつけた日本の若者たちにより誕生しました。現在、アジア、アフリカ、中東、そして日本の震災被災地で活動している国際協力 NGO です。現場の声を政府や社会に届ける政策提言・アドボカシーの活動にも力を入れています。

【日本チェルノブイリ連帯基金 (JCF)】(http://jcf.ne.jp/)

JCF は、1991 年 1 月、チェルノブイリ原子力発電所事故被災者への医療支援を目的として設立された認定 NPO 法人です。信州大学医学部の協力を得て、小児甲状腺がんや小児白血病の診断と治療を、現地医師をサポートする形で行ってきました。2004 年からはイラクの小児白血病・小児がんの子ども達への支援を行なっています。また 2011 年 3 月 11 日からは、原発震災の福島の子どもたちを守ろうと被ばく防護対策事業を行っています。

【劣化ウラン廃絶キャンペーン (CADU-JP)】

2003 年 10 月、ドイツ・ハンブルグで開催されたウラニウム兵器禁止国際会議の出席者の呼びかけに端を発し、劣化ウラン問題を憂慮する全ての人に開かれたキャンペーンとして「劣化ウラン廃絶キャンペーン」 はスタートしました。この地球上で劣化ウランが二度と使用されることがないようにすること、劣化ウランの被害者を援助することを目指します。

2015 年度年次報告　2016 年 7 月 7 日発行

発行人：
特定非営利活動法人　日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）
〒 171-0033 東京都豊島区高田 3-10-24 第二大島ビル 303
電話 /FAX：03-6228-0746　E-mail：info-jim@jim-net.net
公式ウェブサイト：http://jim-net.org
寄付金振込先：
郵便振替口座　00540 − 2 − 94945
加入者名　日本イラク医療ネット
ゆうちょ銀行　金融機関コード　9900　店番　059
預金種目　当座
店名　〇五九 店（〇は漢数字のゼロ）口座番号　0094945

JIM-NET
الشبكة الطبية اليابانية العراقية

2015 年度監査報告書

特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）の 2015 年度決算（2015 年 4 月 1 日 - 2016 年 3 月 31 日）について、監査の結果、事業は適正に実施され、また活動計算書および貸借対照表は、一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認める。

We have audited the financial statement of NPO JIM-NET as of March 2016 and acknowledged that revenue and expenditures for the Fiscal Year 2015 in the activity statement and balance sheet were based on generally accepted accounting principles.

日付：2016年6月2日

監事：栗原 郁